

I. エゼキエル書第 1 章の中心点は、共に組み合わせられて一つの団体的な実体、すなわち、団体のキリストとなって、彼の表現、行動、行政となることができ一組の生き物を、神が必要としているという啓示です。組み合わせは、エゼキエル書第1章のビジョンを理解するかぎです。

エゼキエル 1:12 それぞれは、前に向かって真っすぐにいき、霊が行く所へ彼らはどこへでも行き、行くときには曲がらなかった。

II. 四つの生き物の組み合わせは、彼ら自身の中にあるのではなく、神の中にあり、また神聖な力、神聖な強さ、神聖な恵みによります。なぜなら、鷲の翼は、彼らが組み合わせられて、一として行動する手段であるからです：

エゼキエル 1:9 彼らの翼は互いに連なり、彼らが行くときには曲がることなく、それぞれ前に向かって真っすぐに行った。**11** また、彼らの顔はこのようであった。彼らの翼は上に向かって広げられ、それぞれ二つの翼は互いに連なり、二つはその体を覆っていた。

- A. 神ご自身が組み合わせる要因であって、神聖な建造の各部分を一とならせることができます。
- B. 私たちが自分自身の中で何であろうとも、何を持っていようとも、何を行なおうとも、その結果は、組み合わせではなく、分裂と分離です。
- C. 鷲の翼は、行動のためだけでなく、保護のためでもあります。私たちが何を行なっても、また何であっても、主の恵みと主の力とによってでなければなりません。
- D. それと同時に、私たちは主の恵みと主の力との庇護、おおいの下にいます。
- E. 生き物は、人のように見えますが、鷲のように行動します：
 - 1. これは、私たちが常に自分自身を正常な人のように表現しなければならないことを示しています。
 - 2. しかしながら、行動し庇護する翼は他の人たちに、神聖な方の印象、すなわち、力と保護としての神が私たちと共におられるという印象を与えるべきです。

III. エゼキエル書第1章9節と11節後半から12節は、私たちが召会生活において必要とする組み合わせの美しい絵を提示します：

エゼキエル 1:9 彼らの翼は互いに連なり、彼らが行くときには曲がることなく、それぞれ前に向かって真っすぐに行った。**11** …彼らの翼は上に向かって広げられ、それぞれ二つの翼は互いに連なり、二つはその体を覆っていた。**12** それぞれは、前に向かって真っすぐに行き、霊が行く所へ彼らはどこへでも行き、行くときには曲がらなかった。

- A. それぞれの生き物は、一つの方向に顔を向けています(それぞれ、北、南、東、西に顔を向けています)。彼らの翼の二つは広がって、隣の生き物の翼に触れ、四角形を形成しています。
- B. 生き物はどの方向に動こうとも、どの生き物も曲がる必要はありません。一つは前に向かって真っすぐに行きます。一つは後退し、後ろ向きに動きます。両脇の二つは、横向きに動きます。
- C. これは、キリストのからだとしての召会における組み合わせの美しい絵です。このからだの中で、それぞれの肢体は、自分の特別な地位と機能あるいは務めを持っています。**1 コリント 12:24** ところが、私たちの美しい肢体には、その必要はありません。神は欠けている肢体にさらに豊かな尊さを与えて、体を調和させられました。
- D. 一つの肢体は機能するとき、「前に向かって真っすぐ」動いて、自分の機能を果たします。他の肢体たちは、彼に順応して、同じ方向に動き、ある肢体は「後ろ向きに」動き、他の肢体たちは「横向きに」動き、あらゆる事を十字架を通して、またその霊によって行ない、キリストのからだのためにキリストを他の人たちの中へと分与します。
- E. 召会の奉仕の中で私たちはみな、どのようにして前に向かって真っすぐ歩くかを学ぶ必要があるだけでなく、どのようにして後ろ向きに、また横向きに歩くかを学ぶ必要があります：
 - 1. 組み合わせの中には、自由や便利さはありません。組み合わせは、私たちが曲がらないようにさせます。
 - 2. 私たちは何かを行なう前に、立ち止まり、私たちと共に奉仕している人たちと交わり、組み合わせられる必要があります。
 - 3. 交わりは、私たちをブレンディングし、ミングリングし、調整し、調節し、調和させ、制限し、保護し、供給し、祝福します。からだは交わりの中にあります。
- F. さまざまな機能を持つ兄弟たちが、組み合わせられることを知らなければ、彼らは競争し、さらには互いに争い、分裂という結果にさえなり得ます：
 - 1. 福音に負担を持っている兄弟が機能して、前に向かって真っすぐ動くとき、牧養に負担を持っている兄弟は、後ろ向きに歩くことを学ぶべきです。他の聖徒たちは、これらの二人に従って、横向きに歩くべきです。
 - 2. 後ろ向きに、また横向きに歩くことは、他の人の務め、機能、負担に対してアーメンと仰うことです。
 - 3. もし私たちが自分の特定の奉仕にだけ注意を払い、これら四種類の歩き方をしなければ、最終的に私たちは召会の中で問題となります。
 - 4. 前に向かって真っすぐ歩いている者は、霊(the Spirit)に従う責任があります。
- G. 私たちは組み合わせというこの事柄を、特定の地方召会の中でだけ適用すべきではなく、諸召会の間でも適用すべきです。これが意味することは、私たちが諸召会に従う者であるということです。

IV. 生き物の組み合わせの結果は、彼らが燃える炭火と燃えるたいまつになるということです。

- A. 炭火が燃えることは、少なくとも三つの事を行ないます：
 - 1. 何であれ神と神の性質とに一致しないものは、燃える炭火の聖別し、きよめる火によって焼き尽くされます。そして、神からのものだけが残ります。
 - 2. 組み合わせにおいて燃やされることは、私たちが熱心にし、極めて熱くします。
 - 3. 組み合わせにおいて燃やされることは、召会の力と衝撃力を生み出します。

<p>私たちが組み合わさればされるほど、さらに私たちは互いを燃やします： <u>エゼキエル 1:13</u> その生き物の姿については、その外観は燃える炭火のようであり、たいまつの外観のようであって、火が生き物の間を歩き来しており、その火は輝き、火からいはずまが出ている。<u>14</u> その生き物は、いはずまの煌めきの外観のように走って行き来していた。</p>	<p>B. 炭火は燃やすためであり、たいまつは照らすためです：</p>	<p>1. 聖別する火は、聖別する光となります：</p>	<p>a. 聖別する火によって私たちが燃やされた範囲は、自然に、私たちが照らされる範囲、また他の人を照らすことのできる範囲となります。 b. 正常な召会生活の中では、兄弟姉妹たちの間に暗やみのものは何もあべきではありません。すべては、徹底的に照らされるべきです。</p>
<p>V. 私たちは他の人たちと組み合わされるために、自己を否み、十字架の対処を経験し、鷲の翼によって表徴される神の恵みと神の力によって生活し、行動する必要があります：</p>	<p>A. 私たちは、自己を表現するために行動したり、何かを行なったりしてはなりません。そうではなく、私たちが御父の命と御父の性質との中で事を行なって、御父を表現しなければなりません。これが栄光です。そして、この栄光の中で、私たちはみな一です。<u>ヨハネ 17:21</u> それは、彼らがすべて一となるためです。父よ、あなたが私の中におられ、私があなたの中にいるように、彼らも私たちの中にいるためであり、あなたが私を遣わされたことを、世の人が信じるためです。<u>22</u> あなたが私に与えてくださった栄光を、私は彼らに与えました。それは、私たちが一であるように、彼らも一となるためです。<u>23</u> 私が彼らの中におり、あなたが私の中におられるのは、彼らが成就されて一となるためです。また、あなたが私を遣わされたこと、あなたが私を愛されたように彼らを愛されたことを、世の人が知るためです。</p> <p>B. 私たちは他の人たちと組み合わされるために、赦す主を私たちの赦す命として受け入れて、他の人たちを赦し、また赦されることを求め、キリストの平安に私たちの心を裁定していただく必要があります。</p> <p>C. 私たちは他の人たちと組み合わされるために、私たちの心の中の偶像を対処し、すべての事をキリストのゆえに損失と勘定し、またそれらをちりあくと勘定して、キリストを獲得する必要があります。</p> <p>D. もし私たちが神の中に住み、神に頼り、神の中に定住し、神を表現するなら、私たちは神の中で共に組み合わされることができます。</p>	<p>2. 火は、静止しているのではなく、常に動いています：</p>	<p>a. 火は、生き物と共にあります。なぜなら、彼らは交わりの中で、神に彼らの間で自由に行動していただくからです。 b. 生き物の外観が燃える火のようであることは、彼らが聖別する神の外観を持っていることを示しています。<u>エゼキエル 1:26</u> また、彼らの頭の上にある大空の上に御座のようなものがあり、サファイア石の外観のようであった。そして御座のようなものの上に、人のような外観の方がその上におられた。<u>27</u> 私はその方の腰のように見えるところから上に、こはく金のようなものを見た。火のように見えるものが周り全体を包んでいた。また彼の腰のように見えるところから下に、火の外観のようなものを見た。彼の周り全体には輝きがあった。</p>
<p>VI. 生き物は、霊(the Spirit)に従います。これが示していることは、私たちがキリストのからだの中で他の人たちと組み合わされるためには、霊(the Spirit)によって歩き、また霊(the spirit)にしたがって歩く必要があるということです：</p>	<p>A. 私たちの霊は、宇宙のように広大です。神は私たちの霊の中に住んでおり、私たちの霊は今日のエルサレムです：</p> <p>B. エペソ人への手紙が啓示しているのは、私たちがミングリングされた霊の中において、キリストのからだの実際のためのブレンディングの中にいる必要があるということです：</p>	<p>3. 火が輝いていることは、生き物が組み合わせの中で、栄光で尊厳ある状態を現していることを示しています。</p> <p>4. 輝きは通常のもですが、いはずまの煌めきは特別なものです。これが示していることは、特別なときには、特別な光があつて、突然、煌めいて、他の人たちを驚かせるであろうということです。</p> <p>5. 生き物が走るの、彼らが力と衝撃力を持っているからです。</p>	<p>1. 聖書が「あなたがたの霊」について語る時、それはすべての聖徒の霊を含んでいます。 2. 「ローマ第 8 章 16 節の『私たちの霊』という言葉は、パウロの霊、マルチン・ルターーの霊、ジョン・ウェスレーの霊、ニー兄弟の霊、あなたの霊、私の霊を含んでいます」—エペソ LS 第 24 編。</p>
<p>VII. 私たちは他の人たちと組み合わされるために、組み合わせられている三一の神と一である必要があります：</p>	<p>A. マタイ第 12 章 28 節において、神聖な三一が神聖な組み合わせによって行動していることは、私たちが従うべき卓越した麗しい模範です。これは、私たちのかしら、彼のからだの肢体としての私たちの組み合わせのために立てた良い模範です：<u>マタイ 12:28</u> しかし、私が神の霊によって悪鬼どもを追い出しているのであれば、神の王国はあなたがたに臨んでいるのである。</p> <p>B. 毎日、私たちは自己から出て来て、相互内在しており組み合わせられている三一の神の中へと入る必要があります。</p>	<p>3. 火が輝いていることは、生き物が組み合わせの中で、栄光で尊厳ある状態を現していることを示しています。</p> <p>4. 輝きは通常のもですが、いはずまの煌めきは特別なものです。これが示していることは、特別なときには、特別な光があつて、突然、煌めいて、他の人たちを驚かせるであろうということです。</p> <p>5. 生き物が走るの、彼らが力と衝撃力を持っているからです。</p>	<p>1. 主が別の方によって、別の方のために悪鬼を追い出した方法が示していることは、彼が単独で行動したのではなく、へりくだりをもって、また自己を持たずに行動したということです。 2. 神聖な三一の中心としての御子は、完全にご自身によらず、ご自身のためでなく、ご自身に帰することもありませんでした。彼が行なったすべての事は、神の霊によってであり、また父なる神の王国のためでした。 3. これが私たちに見せていることは、神聖な三一における調和、麗しさ、卓越性です。 4. 今日、召会生活の中で、正常な組み合わせが欠けているゆえに、キリストのからだはまだ十分に建造されていません。 5. 私たちは、神のみこころにしたがってある事を行なうかもしれません。しかし、私たちの行なう事は、自分自身によるべきではなく、他の人たちによるべきです。さらにまた、私たちの行なう事は、自分自身のためではなく、この地上における神の権益、権利のためであるべきです。</p>

経験① 4つの生き物は組み合わせの中で動く:一つの問題は、ある兄弟姉妹はすべて行ないたいか、あるいは全く何もしたくないかのいずれかであるということです。すべてを行ないたい人たちは、あらゆる方向に動くことができることを願います。…生き物は動くとき、前に向かって真っすぐに行きます。彼らは全く曲がりません。一つの生き物が導いて東へ前に向かって真っすぐに動くなら、他の生き物もこの方向に動きまわります。これは、すべての者が組み合わせの中で正しく機能していることを示します。

ビジネス・ライフ編:会社のさまざまなプロジェクトにおいて、あなたはプロジェクトにおけるあなたのポジショニング (positioning) を理解する必要があります。あなたがプロジェクト・リーダーであれば、あなたはリーダーシップを発揮して前向きにまっすぐ進むべきです。しかしそうでないなら、あなたはおもに横歩き、あるいは後ろ歩きをすべきです。横歩き、後ろ歩きをする時、あなたは進んでそうしなければなりません。この点において、あなたは目立ちたがること、高ぶり、傲慢などを十字架で対処しなければ、進んで横歩き、後ろ歩きすることはできません。多くのプロジェクトはあなた自身で行うのではなく、複数の人が協力して行う必要があります。四つの生き物の組み合わせのこの原則は、会社でのあなたの機能にも適用されるべきです。実は、四つの生き物の組み合わせは最も理想的なコラボレーションです。

② 4つの生き物の組み合わせの実際は交わりの中にある:同労者は何を行なう時にも、他の同労者たちと交わるべきです。長老は他の長老たちと交わるべきです。交わりは私たちが調節し、調整し、調和させます。交わりは私たちがミングリングします。…交わりは、私たちが何かを行なおうとすると、立ち止まるよう、私たちに要求します。召会生活、主の働きにおける私たちの組み合わせの中で、私たちはみな、交わりなしに何も行なわないことを学ばなければなりません。私たちの間には、キリストのからだのすべての個々の肢体のブレンディング、ある地区でのすべての召会のブレンディング、すべての同労者のブレンディング、すべての長老のブレンディングがあるべきです。…もし私たちが自分を孤立させ隔離するなら、多くの霊的な益を失うでしょう。

結婚生活/団体生活編:夫婦は互いに開いて交わるべきです。一人で何でも決めるのであれば、交わりは必要がありませんが、夫婦の間の調整がないので、一つ心を生み出すことはできません。妻は夫の助け手ですが、夫が妻によって助けられ、補完されるためには、交わりによる調整、調和が必要になります。この交わりにおいて重要なことは、互いの違いを受け入れ、開いて交わることです。あなたは交わりによってからだの実際、四つの生き物の組み合わせの実際にあずかります。あなたは必ずこのような交わりのために立ち止まり、調整されることを経験してください。そうすれば、あなたは妻によって助けられ、補完されることを経験することができます。例えば、あなたはとても細かい人ですが、主はあなたに大雑把な姉妹を案配されました。大雑把であることを細かく観察すると欠点ばかりが浮き彫りになります。しかし、別の観点から見ると、大雑把な人は大局的に、俯瞰的に物事を見ることができます。あなたは自分の観点である細かさから一旦離れ、俯瞰的に物事を見ることが妻から助けられるべきです。この原則は、妻が夫を補完することだけでなく、夫が妻を助けることやその他の団体生活にも適用されます。

③ 炭火が燃えることは三つの事を行う:第一に、消極的なものをすべて焼き尽くします。何かが燃える炭火の山の上に置かれるなら、そのものは燃やされます。正しい組み合わせが召会にあるなら、この世的なこと、肉、自己の目的、自己の目標、高ぶり、意見、誇ることのようなものを焼き払うでしょう。すべての種類の消極的な事物は、組み合わせによって焼き払われます。何であれ神と神の性質とに一致しないものは、燃える炭火の聖別し、きよめる火によって焼き尽くされます。そして、神からのものだけが残ります。これが召会生活の正しい状態です。第二に、組み合わせにおいて燃やすことは、私たちが熱心にし、極めて熱くします。冷たかったりなまぬるかったりするのではなく、すべての人が燃やされ、燃えています。他の人は召会に来るとき、彼らが燃やされようとしなければ、とどまることはできないことを認識します。…この燃やすことは、なまぬるく、熱心でなく、燃えていなかったラオデキヤに在る召会のように、あなたを燃やさないでしょう。第三に、組み合わせにおいて燃やすことは、召会の力と衝撃力を生み出します。地方召会での衝撃力は燃やすことから出てきます。この力は燃やすことから来るので、内面的で奥義的です。あなたは衝撃力をもちたいなら、組み合わせられなければなりません。この組み合わせの中で、あなたは燃えるようになります。そしてこの燃えることから、衝撃力と力があるようになります。消極的な事物は焼き尽くされ、あなたは火をつけられ、力と衝撃力を持つでしょう。

中高生編:炭は他の炭と一緒にいなければ、燃えることはできず、消えてしまいます。このことはあなたが霊的パートナーと一緒に団体の召会生活を持たなければならぬことを示しています。あなたはテスト勉強で忙しい時も、決して孤立してはいけません。孤立した炭は燃えなくなってしまいます。団体の生活の中で共に燃やし合うことで、あなたは三つの益を受けることができます。第一にあなたは自分の内側の高ぶり、偏った意見、罪などを自分で対処することはできませんが、炭火の火はあなたの内側のあらゆる消極的な物を焼き尽くすことができます。第二に、この火はあなたをなまぬるい状態から救います。なまぬるい人は自分自身と人を前向きに積極的に前進させることができません。第三に、組み合わせにおけるこの火は、あなたに衝撃力と力を与えます。大学受験などの大きな関門を突破するために、あなたには衝撃力が必要です。この衝撃力は組み合わせの中の火から来ます。

④ 成就されて一となる:他の人と一になることを願うなら、私たちは自己から出て来て父なる神の中へと入る必要があります。だれも私たちに代わってこの移動をすることはできません。私たちは自分自身でそれを行なう責任があります。私たちが自分自身から出て来て、御父の中へと、また御父の栄光の中へと入るとき、私たちは一であり、成就されて一となりさえます。

奉仕編:兄弟姉妹と組み合わせられて奉仕することでの秘訣は、自己から出て神の中に入ることです。神だけがあなたを他の肢体と一にすることができるのです。あなたの責任は自己から出て、神の中に入ることです。そうすれば一の中で神はあなたの奉仕を大いに祝福してくださいませ。ハレルヤ!

606 召会 — その建造

1

自己、てん然を捨て、けんぞうされて、
ともにみやとなり、えいこう満たす。

たかぶり、たんどく、とく異せいを捨て、
主の權威にふくし、主の住まいとなる。

2

せい長し、変えられ、供給し、建造され、
機のを果たして、ひとをじょう就す。

自分にぞくすもの、たかくひょう価せず、
すべてかたよらず、きん衡をたもつ。

3

かしらにつながり、主の豊富、享受す；
かみ増しくわり、円じゅくにいたる。
主のあいを知って、かん全にせい長し、
キリストの豊満の身のたけとなる。

4

み住まい、からだに、けんぞうされて、
主のうつわとなり、えい光あらかす。
はなよめ、みやこは、いまや地上にあり、
なが栄こう照らし、ひとにかがやく。

606 召会 — 建造

1

救我脱離自己、天然、主阿、我願被建造、
同眾聖徒作你聖殿、為著充滿你榮耀。

救我脱離乖僻個性、脱離驕傲與單獨；
使我甘願服你權柄、讓你有家可居住。

2

生命供應、活水流通、長進、變化又配搭；
守住等次、盡我功用、成全別人、不踐踏。

自己所經、自己所見、所是、所有並所能、
不再高估、不再稍偏、接受一切的平衡。

3

持定元首、聯絡供應、享受基督的豊富；
充滿神的一切豐盛、因神增加得成熟、
同嘗基督莫測大愛、賞識基督的闊長；
長大成人、不作嬰孩、滿有基督的身量。

4

作神居所、作你身體、主阿、我願被建造、
成為你的團體大器、讓你來顯你榮耀。
聖城景色、新婦榮美、今在此地就章顯、
透出你的榮耀光輝、將你照耀在人間。

840 The Church – Her Building

1 Freed from self and Adam's nature,
Lord, I would be built by Thee
With the saints into Thy temple,
Where Thy glory we shall see.
From peculiar traits deliver,
From my independent ways,
That a dwelling place for Thee, Lord,
We will be thru all our days.

2 By Thy life and by its flowing
I can grow and be transformed,
With the saints coordinated,
Builded up, to Thee conformed;
Keep the order in the Body,
There to function in Thy will,
Ever serving, helping others,
All Thy purpose to fulfill.

3 In my knowledge and experience
I would not exalted be,
But submitting and accepting
Let the Body balance me;
Holding fast the Head, and growing
With His increase, in His way,
By the joints and bands supplying,
Knit together day by day.

4 By Thy Spirit daily strengthened
In the inner man with might,
I would know Thy love surpassing,
Know Thy breadth and length and height;
Ever of Thy riches taking,
Unto all Thy fulness filled,
Ever growing into manhood,
That Thy Body Thou may build.

5 In God's house and in Thy Body
Builded up I long to be,
That within this corporate vessel
All shall then Thy glory see;
That Thy Bride, the glorious city,
May appear upon the earth,
As a lampstand brightly beaming
To express to all Thy worth.